Ⅴ. 小樽商科大学 学術研究奨励事業第2回「学生論文賞」

総　　評

学生論文賞実施委員会
委員長　近藤公彦

「学生論文賞」として 2 回目となる今年度は，学部生部門に 39 編 ，大学院生部門に 5 編 ，計 44 編 の応募がありました。この応募数は昨年度よりも多く，また一昨年度までの学生懸賞論文の近年の推移の倍程度となり，学生の皆さんの研究成果の発表・評価先として，本論文賞の認知度と役割が大きくなってきたことを示しています。学部生部門での応募者は専門ゼミで学ぶ 3・4 年生がほとんどで，ゼミを中心とした応募となっています。所属では社会情報学科と商学科が多くを占めていますが，経済学科，企業法学科，言語センターからの応募もあり，研究テーマとしても多岐に渡っています。今年度は特に，社会情報学科のゼミによる応募が多く見られ，全体の応募数を引き上げました。

プレゼンテーションによる 1 次審査と論文審査による 2 次審査の厳正な 2 段階審査の結果，大学院生部門では優秀賞 1 編，奨励賞 2 編が入賞し，学部学生部門では，大賞となるヘルメス賞 2 編，優秀賞 2 編，奨励賞 11 編，および特別賞 1 編とベスト・プレゼン賞 1 編となりました。このうち，大学院生部門で 1 次審査を通過した 3 編は優秀賞 1 編，奨励賞 2 編とすべて入賞し，その質の高さを示しています。また特別賞は今年度から設けられた賞で，実施委員会において特徴的な評価を得た論文に対して与えられるもので，今年度は 1 編が該当しました。

上位入賞者の論文は，特に 2 次審査において査読担当者から高い評価を得ている傾向があります。「論文の形式・アプローチ・方法論」，「論理構成」，「テーマ設定」，「オリジナリティ」の点で，奨励賞の論文に比べて全体として万遍なく高い評価が与えられています。奨励賞受賞論文は，これらの点でいくつか低い評価が下されていることが指摘されます。特に，先行研究のレビュー不足や論文全体の論理構成の弱さが評価を下げる要素となっています。高いレベルの論文を目指す学生の皆さんには，応募に当たり，論文執筆の基本的な作法のほか，テーマのユニークさを「独りよがり」ではなく客観化・相対化するための学術的な裏づけを十分に意識することを心掛けてください。

本論文賞では，2 段階審査にいずれにおいても応募者への評価のフィードバックが行われています。これは論文執筆のノウハウや研究能力のレベルの向上につながるものですので，ぜひ今後に役立てていただきたいと思います。

最後になりましたが，本論文賞の実施に当たりまして，株式会社北洋銀行様より多大なご支援を頂戴いたしました。記して感謝の意を表します。

小樽商科大学 学術研究奨励事業第２回「学生論文賞」結果

○学部学生の部

結果	タイトル	応募者
ヘルメス賞	VaRの実践と計算方法の比較	菅野　有記 中島　啓
	北海道における暖房エネルギー源の木質バイオマス転換可能性に関する研究	草野　雄太 村松　徹 杉山　美幸 鈴木　啓 黒川　紗良 洪　明堤
優秀賞	ラッキーピエロの成功に見るハンバーガーチェーンビジネス論理の変化	小林　沙織
	観光地における洋菓子土産ブランドの成長とあり方ールタオを事例として	東出　幸一郎 伊藤　理代 尾池　舞夢 上村　真弓
特別賞	投票用紙記載台に掲示される候補者名簿が投票行動に与える影響の考察	渡部　謙太郎
奨励賞	ドラッグストア業界にみる店舗多様化の考察～サッポロドラッグストアーを事例に～	近藤　雅之 坂口　真美 佐藤　綾香 田川　和広
	コミュニティ型小売業とはー丸井今井小樽店とサンモール一番街の事例をもとに	上田　真友子
	CDの売上げ減少からみる音楽業界の変化	佐々木　希 槌屋　茉季子 福澤　茉璃子
	我が国の『構造改革』におけるPPPの重要性について	工藤　浩平
	道内質屋業界における営業活動の基盤についてー個人（零細）質屋に関する考察	成　珍模 小笠原　静香 吉崎　孝佑
	札幌圏におけるフリーペーパーの地位の確立	佐々木　貞文 上野　晴香 工藤　布由子 高橋　智美
	中華人民共和国・中華民国、統一と独立の論争－２つの主権国家の政策変化を追って	渡邊　有美
	地域の小規模家具小売店の問題～小樽市の小規模家具小売店を例に～	児玉　結
	チルドカップ市場の参入戦略－後発者の視点から	鳥谷部　未来 新保　綾 山内　里恵
	二項モデルによる鶏卵先物オプション価格の導出	竹本　健一 □□　□□
	紀伊長島町水道水源保護条例を例にみる条例制定権の限界	三上　紘子 大和田　康子 西川　美由紀 林　由季子

○大学院学生の部

結果	タイトル	応募者
優秀賞	デュレーションを用いたヘッジポートフォリオのVaR	久保　順也
奨励賞	独占禁止法２５条の存在意義について	松岡　清華
	An Investigation into Avoidance Behavior in English Writing by Japanese learners	和田　眞里

○ベスト・プレゼン賞

結果	タイトル	応募者
ベスト・プレゼン賞	おたる水族館の課題と新事業提案～水族館が変われば小樽が変わる!!～	関野　亜実 白鳥　里美 田嶋　遥介 千葉　いつみ

副賞　ヘルメス賞　10 万円　優秀賞　5 万円　奨励賞　1 万円　特別賞　1 万円
　　ベスト・プレゼン賞　図書カード 1 万円分

各論文講評（優秀賞以上および特別賞）

ヘルメス賞

菅野　有記　　中島　啓　「ＶａＲの実践と計算方法の比較」

ＶａＲ（Ｖａｌｕｅ　ａｔ　Ｒｉｓｋ）とは「ある一定確率で起こりうる将来の損失額の最大値」と定義され，リスク管理の中心的な役割を担っている。特に，金融機関はＢＩＳ規制のもと，ＶａＲに基づき資本金等の調整を課せられている。一方，ＢＩＳは，一定の条件を満たした場合，各金融機関が独自にＶａＲを計算することを認めている。このため，各金融機関はＶａＲ値を低く計算する独自モデルを構築するインセンティブがある。

以上のことを踏まえ，本論文の主旨は，ＢＩＳが提示する標準方法を「モンテカルロ法」と「ヒストリカル法」という，2 種類の方法と比較することである。計算の結果，取り上げたいくつかの金融資産においては，後者の方法によるＶａＲ値が現実の値と近いこと，また，ＶａＲ値自身が低くなることが示されている。

この論文は，構成が分かりやすく，目的がきわめて明確である。また，筆者は計算可能な課題がうまく設定し，かつ，その計算を通して技術的なスキルも習得していることが読み取れる。学部生として理解できる範囲において，ＶａＲの背景をよく研究しており，その知識を研究課題にうまく結び付けている点が非常に優れており，ヘルメス賞に値するものと感じられた。

ヘルメス賞

草野　雄太　　村松　徹　　杉山　美幸　　鈴木　啓　　黒川　紗良　　洪　明堤

「北海道における暖房エネルギー源の木質バイオマス転換可能性に関する研究」

昨今の原油価格の高騰と二酸化炭素排出等による地球の温暖化を背景に，我が国に多く存在する森林資源のエネルギーとしての活用について検討した研究で，現在の社会情勢を背景にした大変意義深い論文である。学生達は北海道の人工林としての針葉樹林に着目し，これら木質バイオマスが地球大気の二酸化炭素濃度を増加させない再生可能なエネルギーとして，特に森林資源に恵まれた北海道においてどの程度活用可能かを研究している。木質ペレットの燃焼エネルギーを灯油に換算し，北海道の人工針葉樹林を 40 年サイクルで伐採しペレット化して冬季暖房に利用すると仮定すると，彼らの計算ではおよそ 30%の暖房エネルギーを木質ペレットで賄える。この計算を各支庁に適用すると，林業が盛んでそれほど人口の多くない，檜山，日高，網走支庁では冬季暖房灯油量のすべてを木質ペレットで代替できる計算となる。再生可能なエネルギーについて論じた優れた論文であるが，配管を通してストーブに供給される便利な灯油に馴れてしまった住民が，過去の石炭利用のように手間のかかる木質ペレット燃料に転換してくれるのかという，現実的な考察とその解決策への提案が無いのが残念である。

優秀賞

小林　沙織　「ラッキーピエロの成功に見るハンバーガーチェーンビジネス論理の変化」

北海道函館市には，地方限定のハンバーガーチェーンとして有名な「ラッキーピエロ」があり，この論文は，その「ラッキーピエロ」の成功要因について検証した論文である。ラッキーピエロは，他のハンバーガーチェーンと特徴が異なり，一見，成功要因とは呼べない非効率な部分も存在する。そこで，著者の小林さんは，「ラッキーピエロ」が成功した要因を明らかにするために，4 つの仮説を立て検証している。調査は，アンケート調査およびヒアリング調査を通して行い，信頼性の高い調査となっている。また，マクドナルドとモスバーガーを例に挙げ，価格，立地，食材，商品提供方法，ターゲット層などの観点から比較し，従来のチェーン店との差が理解しやすい構成である。これらの調査結果から，成功要因は，一定の地域に集中して店舗を出店するドミナント出店と呼ばれる方法をとり，「食を楽しめる空間作り」に成功したためと結論づけている。全体的に読みやすく，調査も緻密で，良い論文である。

優秀賞

東出　幸一郎　　伊藤　理代　　尾池　舞夢　　上村　真弓

「観光地における洋菓子土産ブランドの成長とあり方ールタオを事例として」

我が国では，地方の資源を活用して地方を活性化しようとの試みが盛んである。小樽は，人口減少，高齢化など多くの地方都市に共通する課題を抱えている。そんな中，観光が小樽市の経済を支える重要な産業となっている。

小樽市の観光資源として有名なものは，「小樽運河」「レトロな街並み」「寿司」「おたるガラス」などがある。北海道には「白い恋人」など全国に著名な「菓子」がある。そんな中，本州資本で小樽に進出した「ルタオ」と言う洋菓子業が急成長している。

本論文は，観光地「小樽」から全国ブランドとして成長している「ルタオ」を採り上げ，本州資本の個別企業が成功してきた要因を，競合他社との比較，類似他都市の事例との比較で明らかにしており，客観的な分析から導き出された結論には納得性がある。

学部生の研究として，ここまで論理性・実証性において優れた事例は少ない。文章表現にも長けており，ライターとしての能力も高いと認められる。

優秀賞

久保　順也　「デュレーションを用いたヘッジポートフォリオの VaR」

債券投資における金利リスクを表す指標としてデュレーションがある。これは「複利総合利回りが一単位変化した時にどれだけ債券価格が変動するか」を表している。金利が残存期間に無関係に一定量変動した場合はこの手法によって示された価格変動値はかなりの精度を持つことが定義より明白である。この考え方を利用して，債権ポートポリオの金利リスクをコントロールするために，債券先物の売買を通じてデュレーションを管理する方法がよくとられる。一方，現実には金利変動は複雑である。そのため，上記のような金利リスクの管理手法には問題があるのは容易に理解できる。

以上のことを踏まえ，本論文の主旨は，債券ポートフォリオの金利リスクを債券先物のデュレーションを通じで行った時のエラーをモンテカルロ法に基づくＶａＲによって数値化して示すことである。計算の結果，債券ポートフォリオの構成銘柄が債券先物に用いられている銘柄の特性から乖離すればするほど，債券先物のデュレーションを用いた金利リスクのコントロールがうまくかないことが示されている。

デュレーションは現実の債券運用に用いられており，その問題点はよく知られている。この論文はそのことを再考したものである。デュレーションとＶａＲを組み合わせて問題点を数値的に見やすくしており，その技術的な点が優秀賞に値いするものと感じられた。

特別賞

渡部謙太郎　「投票用紙記載台に提示される候補者名簿が投票行動に与える影響の考察」

本研究は，選挙の際に候補者が本名とは別に通称として平仮名等の表記を用いることが認められていることに注目し，候補者氏名の表記方法と選挙人の投票行動の関係について実証的に明らかにしようと試みた斬新な研究です。特に若年層の政治への関心の低下が指摘されて久しい（ごく最近は局地的に関心が高まっているらしいが）わけですが，選挙人が意識しているか否か，またこのこと自体が好ましいかどうかは別として，たしかに候補者氏名の“字面”が投票行動に影響している可能性は否定できないわけで，この，ある意味ではタブーに近い仮説を実験に基づいて確かめようとした点が本研究の最大の“売り”と言って良いでしょう。実は本論文の審査にあたった 2 名の教員の評価は，研究のアプローチをどのように評価したかによって大きく異なっていて，結果的に総合得点は入賞ラインに届きませんでしたが，両審査員が［研究の独創性］の項目で高評価を与えていること，さらに一次審査のプレゼンテーションの評価が高いことなどを総合的に判断して，学生論文賞実施委員会が特別賞に値すると判断したものです。

審査担当教員

相内俊一*，穴沢 眞*，阿部孝太郎*，石井利昌，石黒匡人*，石崎 香理，一原亜貴子，伊藤 一*, 今本啓介，江頭 進*，海老名誠*，大島 稔*，大津 晶*，大矢繁夫*，荻野富士夫*，小田福男*, 乙政佐吉*，片岡正光*，木村泰知*，小林敏彦*，近藤公彦*，齋藤一朗*，坂柳 明*，佐山公一*, 渋谷 浩*，下川哲央*，杉山 成*，鈴木将史，高井 収，高田 聡*，高野寿子*，多木誠一郎*, 田中幹大*，ダニエラ・カルヤヌ，玉井健一*，辻 義人*，出川淳*，遠山淳弘，中浜 隆，中村秀雄*, 沼澤政信*，簇本智之*，藤生源子*，船津秀樹*，プラート・カロラス*，裴 崢，白 貞壬*，宝福則子*, 前田東岐*，松尾 睦*，松家 仁*，道野真弘*，横村栄美*，李 濟民*，若井克俊*，和田健夫，和田良介 （以上 57 名　＊は 2 次審査も担当）

第 1 次審査（11 月 21 日）

表彰式　学長を囲んで（3 月 18 日）